

ミヤマザクラ *Prunus maximowiczii* Rupr.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、また開発や被陰のため減少傾向にある。

【形態】

落葉性の高木。高さ 10m、直径 40cm になる。樹皮は紫褐色で、横に長い皮目が目立ち、若い枝には毛が多い。葉は互生し、倒卵状楕円形、先端は尾状鋭尖頭、基部は広くさび形または切形で 1 対の蜜腺があり、長さ 4~7cm、幅 2.8~4.5cm、辺縁には鋭い重鋸歯があり、両面とも毛があり、裏面は淡緑色となる。花期は 5~6 月上旬、葉よりも遅れて側枝に短い総状花序または散房状花序を出し、4~10 個の花をつける。花は白色で直径 1.5~2cm、花弁は 5 枚で先端は円形である。果実は球形で直径約 8mm、紅紫色~黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 82109, 2007-8-26）、2 豊根（芹沢 94227, 2018-6-18）。4 津具にもあるという（小林 2006）。

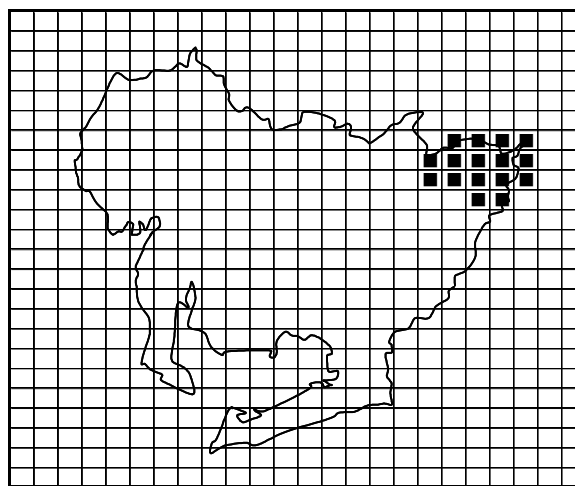
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の温帯~亜寒帯域に生育する。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の疎林や二次林の構成種で、林縁に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では北東端の山地だけに生育している。ある程度の個体数はあるが、生育地の一部は観光開発により失われている。その一方で、薪炭林の利用停止によって遷移が進行すれば、被陰により衰退するおそれもある。

【保全上の留意点】

陽性の樹木であるため、極相林内では生育できない。地形の改変を伴わない伐採は、本種の個体群維持にはむしろ好都合である。

【特記事項】

狭義のサクラ類と異なり、花序が短い総状となる。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.152. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本 II p.16, 平木本 I p.192, 平新版 3 p.62.